

# 美濃加茂市地域公共交通網形成計画（案）

平成 2 8 年 2 月

美濃加茂市地域公共交通会議



# 目 次

<b>1. 美濃加茂市地域公共交通網形成計画策定の目的</b> .....	<b>1</b>
1) 社会情勢の変化と法律改正 .....	1
2) 地域公共交通網形成計画の位置づけ .....	1
3) 美濃加茂市地域公共交通網形成計画策定の必要性 .....	1
<b>2. 美濃加茂市の現状と公共交通の課題</b> .....	<b>5</b>
1) 美濃加茂市の現状 .....	5
2) 公共交通の現状 .....	7
3) 上位・関連計画の概要 .....	14
4) ニーズ調査結果 .....	16
5) 公共交通の課題 .....	50
<b>3. 持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び     再生の推進に関する基本的な方針</b> .....	<b>55</b>
1) 美濃加茂市の交通将来像 .....	55
2) 地域公共交通の基本方針 .....	57
<b>4. 計画の区域と計画期間</b> .....	<b>60</b>
1) 計画区域 .....	60
2) 計画期間 .....	60
<b>5. 計画の目標</b> .....	<b>61</b>
<b>6. 計画の目標を達成するために行う事業・実施主体</b> .....	<b>65</b>
1) 公共交通ネットワークの形成 .....	65
2) 公共交通の利用促進策 .....	70
3) 持続可能な公共交通の維持に向けた三位一体の取り組み .....	74
4) 各事業の着手時期・実施期間及び事業主体 .....	75
<b>7. 計画の達成状況の評価に関する事項</b> .....	<b>76</b>
1) 公共交通ネットワークの評価の基本的考え方 .....	76
2) 路線単位の評価指標及び評価基準 .....	77

# 1. 美濃加茂市地域公共交通網形成計画策定の目的

## 1) 社会情勢の変化と法律改正

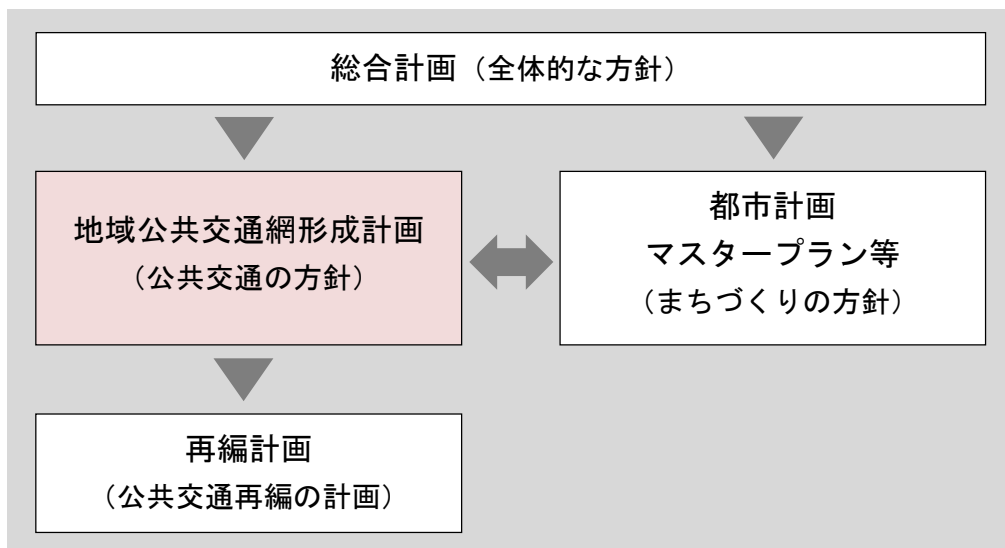
近年我が国では、少子高齢化、人口減少、モータリゼーションの進展により公共交通の利用者が減少しています。その一方で、地域住民の移動手段の確保、まちのにぎわい創出など、住みやすく、活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域公共交通の役割が見直されています。このような背景の下、交通政策基本法が制定されるとともに、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（地域公共交通活性化再生法）が改正され、地域公共交通網形成計画が策定できるようになりました。

地域公共交通網形成計画では、地域公共交通の現状・問題点、課題の整理を踏まえて、公共交通ネットワーク全体を一体的に形づくり、持続させることを目的に、地域全体の公共交通システムのあり方、住民・交通事業者・行政の役割を定めるものとしています。

## 2) 地域公共交通網形成計画の位置づけ

地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、総合計画や都市計画マスタープラン等の上位・関連計画との整合性を図り、地域の実状や市民のニーズを踏まえた持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた方向性を定めます。なお、公共交通ネットワーク形成の展開にあたっては、今後、具体的な路線、バス停、時刻等の設定に関する再編計画を策定します。

図 1-1 地域公共交通網形成計画の位置づけ



## 3) 美濃加茂市地域公共交通網形成計画策定の必要性

美濃加茂市の第5次総合計画では、「まあるいまち みのかも」という将来像の下、「みんながそれぞれの役割をもって、誰もが活躍できるまち」を目指しており、特に交通の面では便利に移動できるしくみをつくることで「快適でこちよく定住できるまち」を目指しています。このまちの実現には、公共交通に求められる役割は大きく、多岐にわたります。

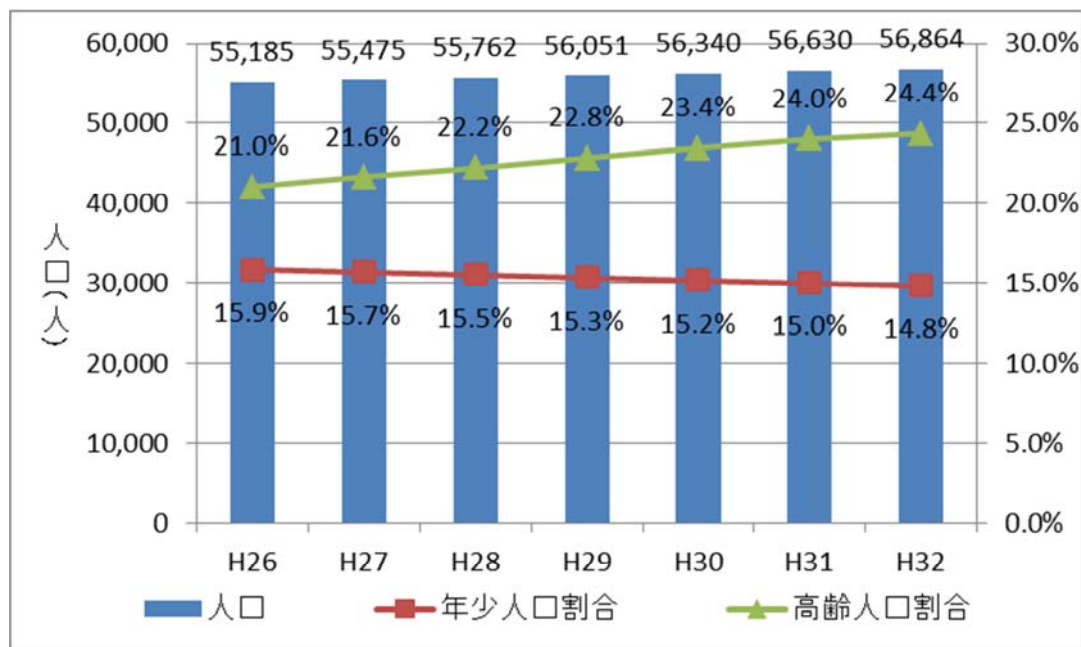
## ①安心して住み続けるために

美濃加茂市の人口は平成26年度以降も増加傾向にあると推計されています。また、高齢人口割合も増加傾向にあり、増々高齢化の進行が予想されています。一方で世帯当たりの人口は減少傾向であり、ひとり暮らしの世帯や高齢者のみの世帯の増加も予想されます。

美濃加茂市では多くの方が自動車で移動していますが、高齢になると自分で運転することが困難になってきます。また、ひとり暮らしの世帯や高齢者のみの世帯では、家族に送迎を頼むことも難しくなってきます。

このような方々の移動手段としての役割を期待されているのが、公共交通です。さらに、高齢者だけでなく、子どもたちの移動手段にもなります。公共交通があることで、自動車を運転できない人の生活の足が確保され、外出機会の増加にもつながります。このように公共交通の充実は、美濃加茂市に子どもたちからお年寄りまでが安心して住め、また、いつまでも住み続けるために不可欠であると言えます。

図 1-2 将来推計人口



※資料：美濃加茂市第5次総合計画後期基本計画書

## ②コミュニティづくりと安心安全のために

自家用車はプライベートな空間で、自由に周りを気にすることなく移動することができます。一方、公共交通は、誰かと乗り合うことになるため、他人を気にしなければなりません。そこでは会話や譲り合いなどが生まれ、コミュニケーションをとる機会となります。子どもたちにとっても公共性を学ぶ良い機会になり、公共交通を利用することは地域のコミュニティづくりにも繋がります。

公共交通を利用してコミュニケーションをとることが根付けば、いつも同じバスに乗っていた人が乗っていないことに気付いたり、地域を歩く人が増えることで不審者を発見できたりするなど、防犯効果も期待でき、セーフティネットとしての役割を果たします。また、美濃加茂市では自転車や徒歩で通学する学生が多くいます。公共交通を利用することで少しでも車量を減らし、交通事故のリスクを削減することにも繋がります。

### ③健康増進のために

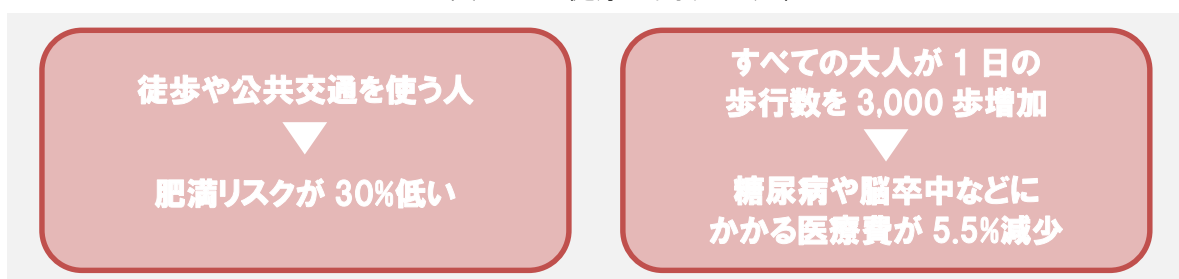
健康に暮らすためには、日常的に外出して運動することが大切です。

公共交通を利用することは、自宅からバス停や駅への移動など、歩くことが必要になります。

ある調査では、毎日外出する高齢者は、ほとんど家を出ない人たちに比べ、歩行が不自由になるリスクが1/4、認知機能が落ちるリスクが1/3.5になるとも言われています。また、スウェーデンの公衆衛生調査2004によると、徒歩や公共交通を使う人は肥満リスクが30%低いとされています。厚生労働省の試算では1歩あたりの医療費削減効果は0.0014円とされています。すべての大人が1日の歩行数を3,000歩増やした場合、糖尿病や脳卒中などにかかる医療費が5.5%減り、2,695億円を節約できると言われています。

公共交通を利用して外出することは、適度な運動をすることになり、健康寿命を延ばし、介護する家族の負担軽減や医療費削減に繋がります。

図 1-3 健康に関する効果



※資料：東京都老人総合研究所 老人研 NEWS No. 219  
スウェーデン公衆衛生調査 2004  
内閣府 次世代インフラ戦略協議会 第7回配布資料

### ④街なかのにぎわい創出のために

車が集まると「渋滞」ですが、人が集まれば「にぎわい」です。公共交通を利用して街なかの人に集まり、まちを歩くことで、商店街や中山道にもにぎわいが戻ります。新しいお店や憩いの場ができ、人々が交流し、新たな文化が生まれる可能性もあります。

例えば富山市では、公共交通を中心としたまちづくりを進めたことで、以前より多くの人でにぎわい、街なかには、会話や読書を楽しむ人が利用する憩いの場が形成されています。

図 1-4 富山市の街なかの様子

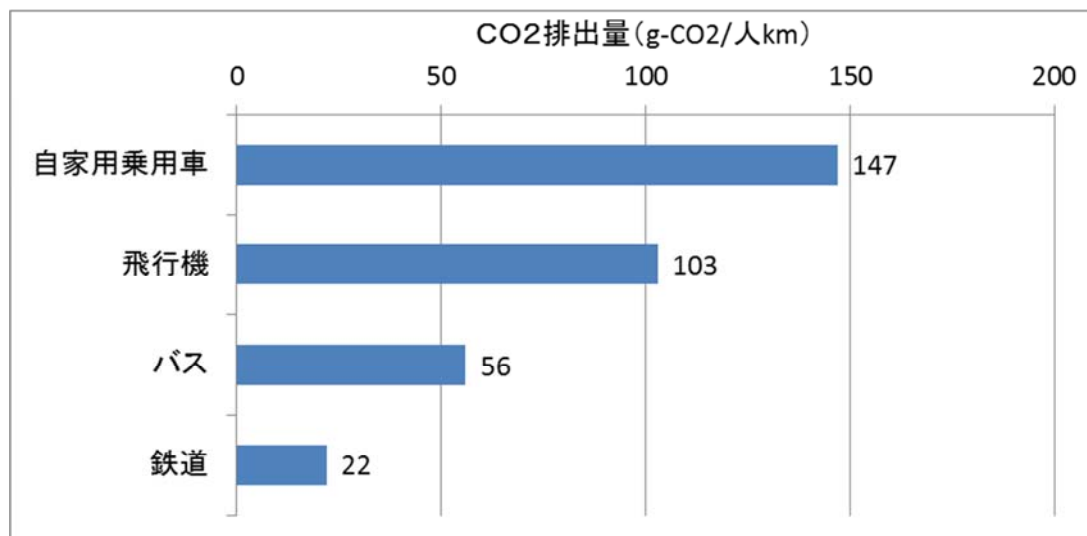


※資料：富山市ホームページ、内閣府 次世代インフラ戦略協議会 第7回配布資料

## ⑤環境負荷の低減のために

近年、地球温暖化の問題が注目されています。その原因の一つがCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスです。人ひとりを1km運ぶのに排出されるCO<sub>2</sub>は、自家用乗用車と比較すると、バスは1/3程度、鉄道は1/7程度しかありません。このように公共交通は環境にやさしい移動手段であり、一人ひとりの公共交通利用が地球規模の環境保全へと繋がります。

図 1-5 輸送量当たりのCO<sub>2</sub>排出量



※資料：国土交通省ホームページ

このように、公共交通は、高齢者や子どもたちへの移動手段の確保のみならず、コミュニティづくり、健康増進、にぎわい創出、環境負荷の低減等の幅広い効果が期待できる手段と言えます。まさにまちづくりの装置と言えます。このことから、美濃加茂市が目指すまちの姿の実現に向け、公共交通の維持活性化は必要不可欠です。

美濃加茂市では、美濃加茂市地域公共交通網形成計画を策定することで、市内の公共交通の課題や市民ニーズを整理し、市民や地域全体にとって望ましい公共交通のあり方や関係機関の役割を定め、持続可能な公共交通ネットワークの形成による「こちよく定住できるまち」を市民の皆さんと共に目指します。

## 2. 美濃加茂市の現状と公共交通の課題

### 1) 美濃加茂市の現状

#### ①人口推移

美濃加茂市の人口総数は増加傾向にあり、平成22年度現在54,729人となっています。今後も増加傾向にあり、平成32年度には56,864人に達すると推計されています。

年齢階層別の人口割合では、年少人口割合は減少傾向、老年人口割合は増加傾向にあり、平成32年度の老年人口割合は24.4%（全国平均29.1%）になると推計されています。

1世帯当たり人員は、減少傾向にあり、平成17年度には3人を下回り、核家族化が進行しています。

図 2-1 人口の推移

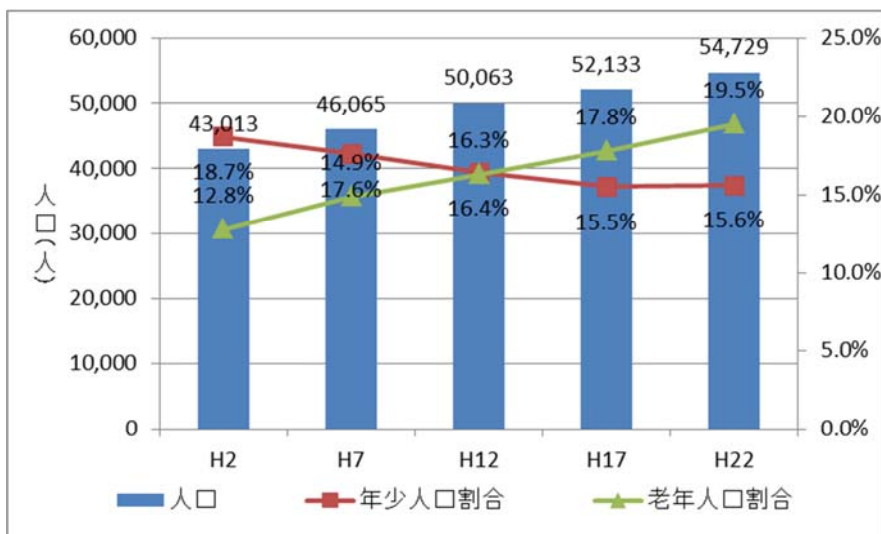
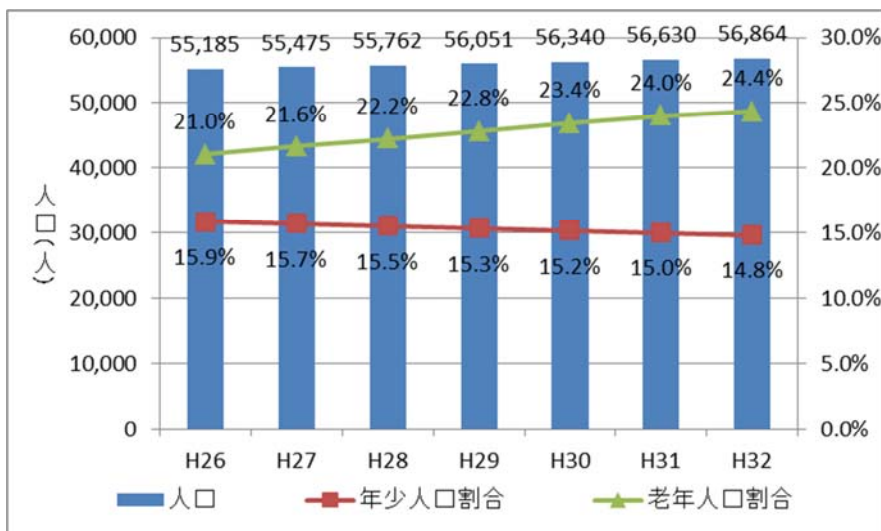


図 2-2 将来推計人口 (再掲)



※資料：美濃加茂市第5次総合計画後期基本計画書

表 2-1 1世帯当たり人員の推移 (国勢調査)

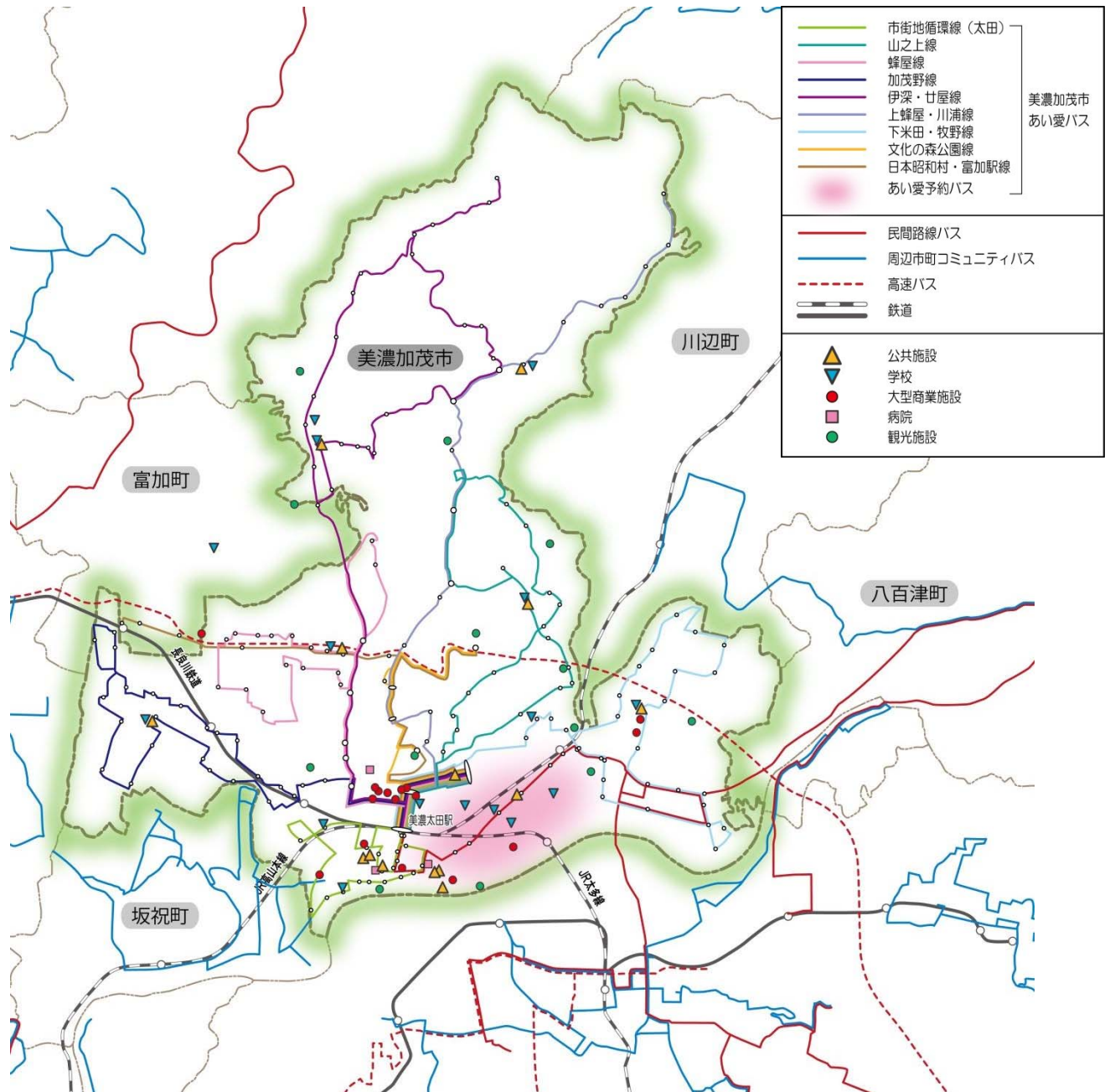
	H2	H7	H12	H17	H22
世帯当たり人員(人/世帯)	3.4	3.3	3.0	2.9	2.8



## ②主要施設の立地状況

美濃加茂市の主要施設の立地状況を見ると、学校及び観光施設等は各地区に分散立地していますが、大型商業施設や病院は、美濃太田駅周辺に多く集積しています。また、これら主要施設と公共交通網の関係を見ると、多くの主要施設は鉄道路線網とバス路線網によりアクセス可能なことがわかります。

図 2-3 美濃加茂市周辺の地域公共交通網図と施設立地



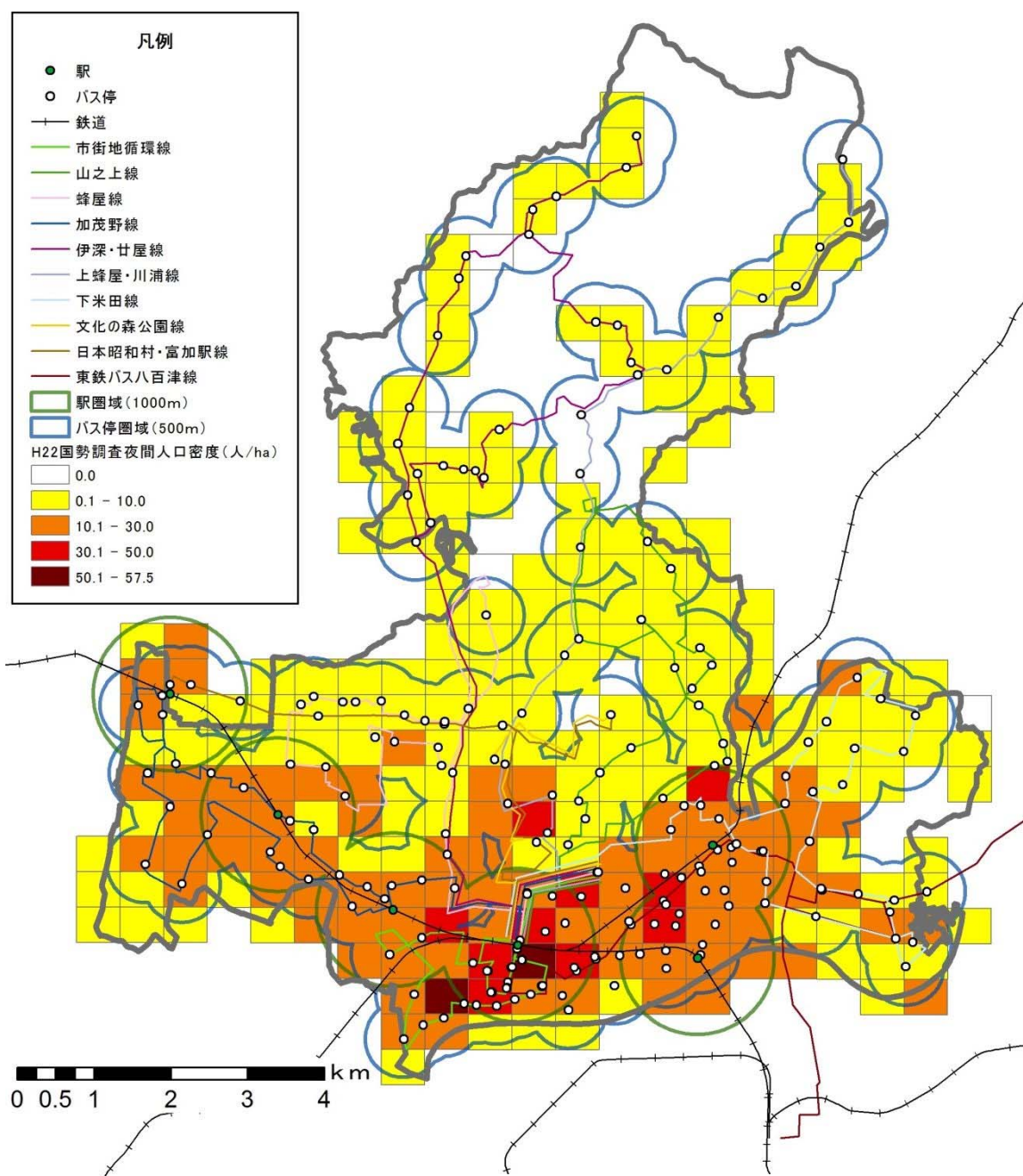
## 2) 公共交通の現状

美濃加茂市は、美濃太田駅において、JR 高山本線、JR 太多線、長良川鉄道越美南線が交差しており、鉄路が幹線として重要な役割を果たしています。

美濃太田駅から八百津町へは、民間の路線バス（東濃鉄道バス八百津線）が運行、市内の各地域へは、コミュニティバス（あい愛バス及びあい愛予約バス）が運行されています。また、三和小学校、双葉中学校（富加町）へは、スクールバスが運行されています。

美濃加茂市内の公共交通圏域（鉄道駅から 1km 及びバス停から 500m）には、ほとんどのの居住地が含まれており、公共交通圏域による人口カバー率は 95.7% となっています。

図 2-4 交通不便地域の検証



※公共交通圏域（鉄道駅 1,000m、バス停 500m）内の人口：52,382 人  
 美濃加茂市人口（平成 22 年度国勢調査）：54,729 人  
 公共交通圏域人口カバー率：95.7%  
 （平成 22 年国勢調査より算出）

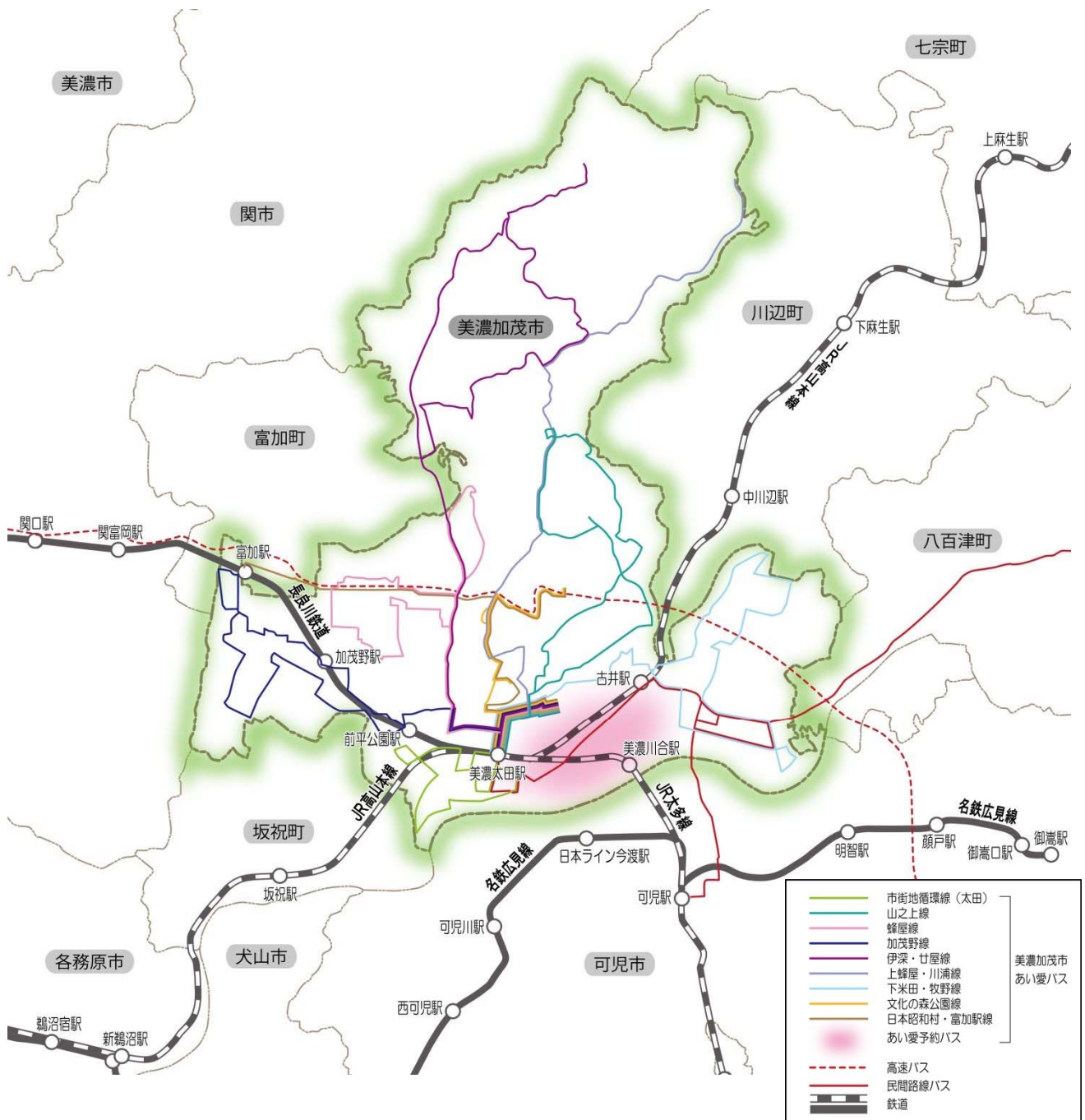
## ①鉄道

美濃加茂市の南部を東西へ横断する形で JR 高山本線が整備されており、中部地方と北陸地方を結ぶとともに隣接市町との連携軸として機能しています。また、美濃太田駅から南方の可児市、多治見市へは、JR 中央本線を結ぶ JR 太多線が整備されています。この JR 高山本線と JR 太多線の駅として、市内には美濃太田駅、古井駅、美濃川合駅の 3 駅があります。

また、第三セクターの鉄道として、美濃太田駅から北方の富加町、関市、美濃市、郡上市を結ぶ長良川鉄道越美南線があり、市内には美濃太田駅、前平公園駅、加茂野駅の 3 駅があります。長良川鉄道では、新たに沿線の四季折々の自然、原風景、伝統文化、食文化を楽しむことができる観光列車も運行し、観光誘致に取り組んでいます。

このように、美濃太田駅を中心に鉄道ネットワークが形成されています。

図 2-5 鉄道路線網図



## (1) 運行状況

美濃加茂市において、最も運行本数の多い鉄道駅は美濃太田駅であり、JR 高山本線、JR 太多線、長良川鉄道越美南線の3路線の結節点となっていることから、平日1日あたり198便が運行されています。路線別でみると、美濃太田駅ではJR 高山本線76便、JR 太多線77便、長良川鉄道越美南線44便となっています。

長良川鉄道越美南線では、観光列車「ながら」が運行予定（金・土・日・祝日運行、1日あたり1往復）となっています。

表 2-2 鉄道運行本数（H27.10 現在）

( ) は特急本数

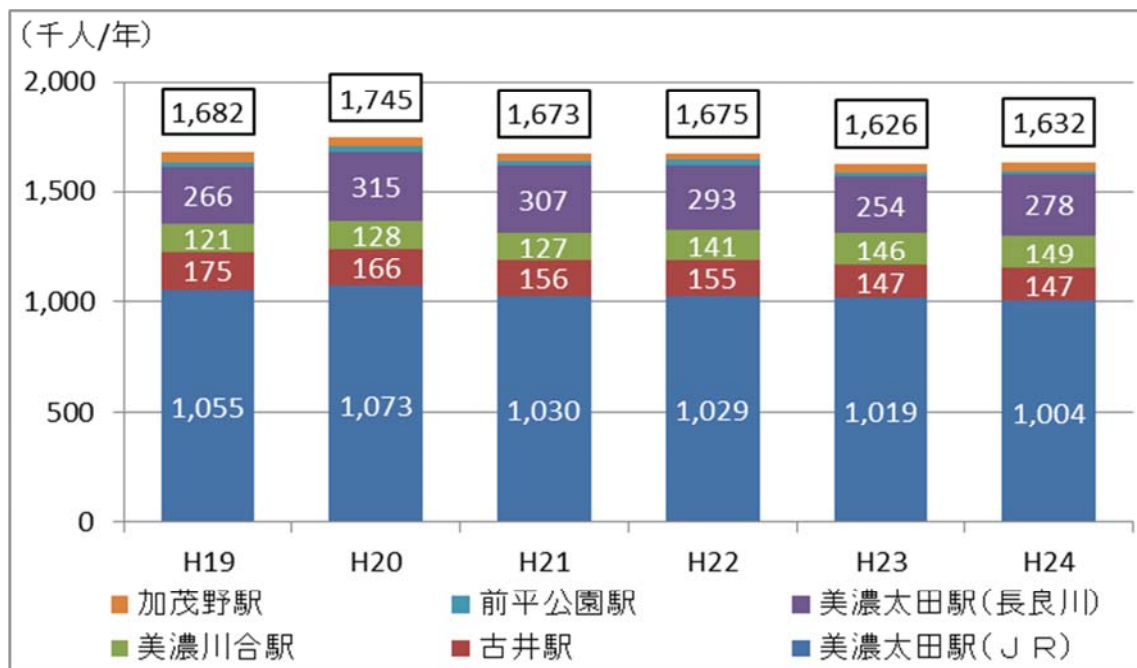
JR高山本線			JR太多線			長良川鉄道越美南線		
駅名	富山方面	岐阜方面	駅名	多治見方面	美濃太田方面	駅名	美濃太田方面	美濃市・北濃方面
美濃太田駅	26(11)	51(11)	美濃太田駅	38	39 (美濃太田駅止まり)	美濃太田駅	22 (美濃太田駅止まり)	22
古井駅	15	15	美濃川合駅	38	39	前平公園駅	22	22
						加茂野駅	22	22

※資料：各社時刻表より

## (2) 利用状況

美濃加茂市内の駅の年間乗車人員は、美濃太田駅が最も多くなっています。JR 高山本線、JR 太多線の各駅の年間乗車人員の推移をみると、美濃川合駅は増加傾向にあるものの他の駅は減少傾向にあります。長良川鉄道の各駅では、年間乗車人員は横ばいになっています。

図 2-6 美濃加茂市内の駅別年間乗車人員

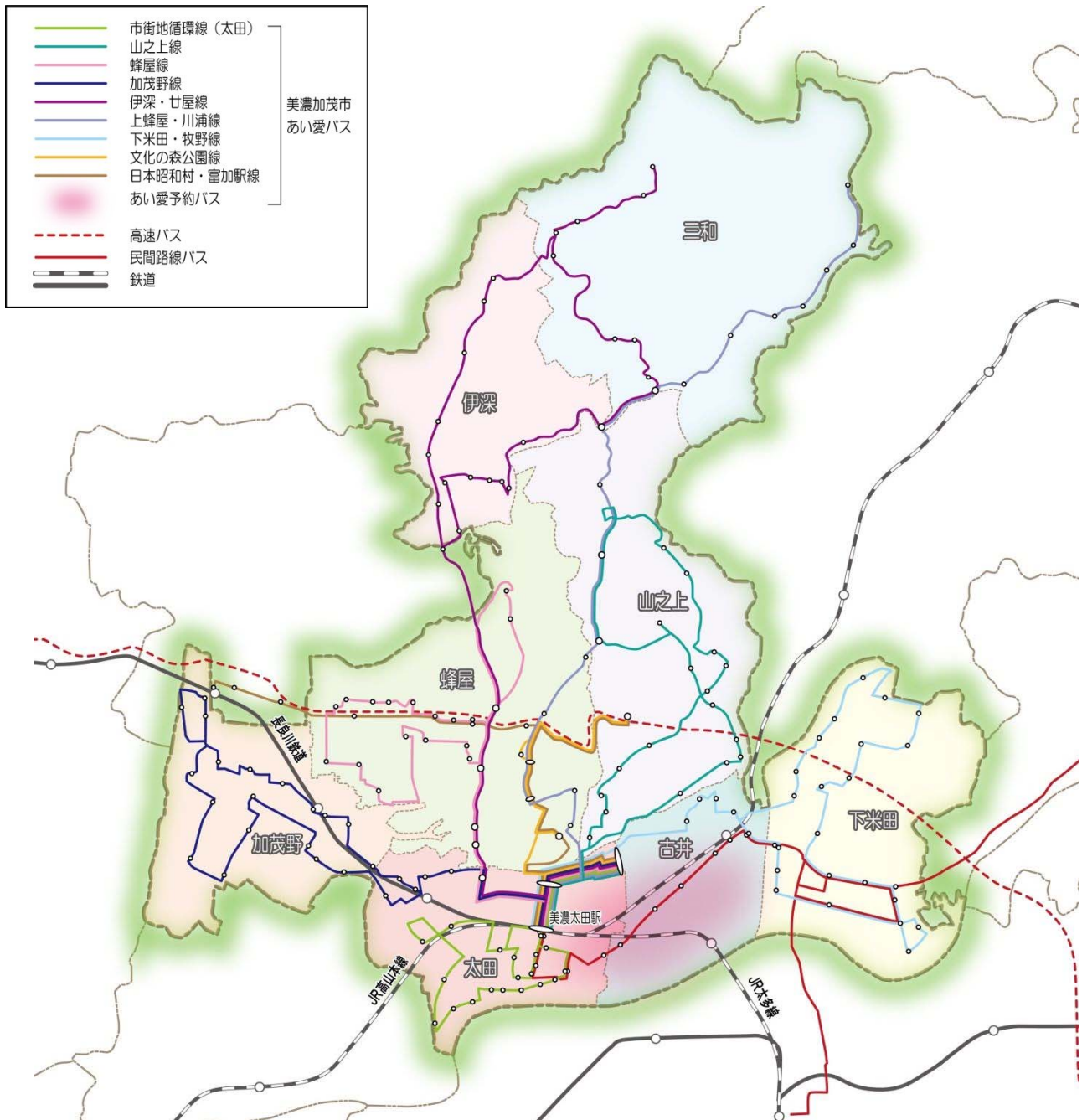


※資料：美濃加茂市統計書

## ②バス

美濃加茂市内から八百津町へは、民間の路線バス（東濃鉄道バス八百津線）が市域を越える路線として運行されています。総合福祉会館から市内の各地域へは、コミュニティバス（あい愛バス及びあい愛予約バス）が運行されており、市民の日常生活を支えています。

図 2-7 市内バス路線網図



## (1) 運行状況

東濃鉄道バス八百津線は、1日1～6本（往復）運行されており、美濃加茂市内と八百津町を結んでいます。高速バスは、1日1本（往復）運行されており、美濃加茂市と東京を結んでいます。あい愛バスの市街地循環線とあい愛予約バスは平日、その他の路線は曜日限定の運行となっています。

表 2-3 バス路線の概要

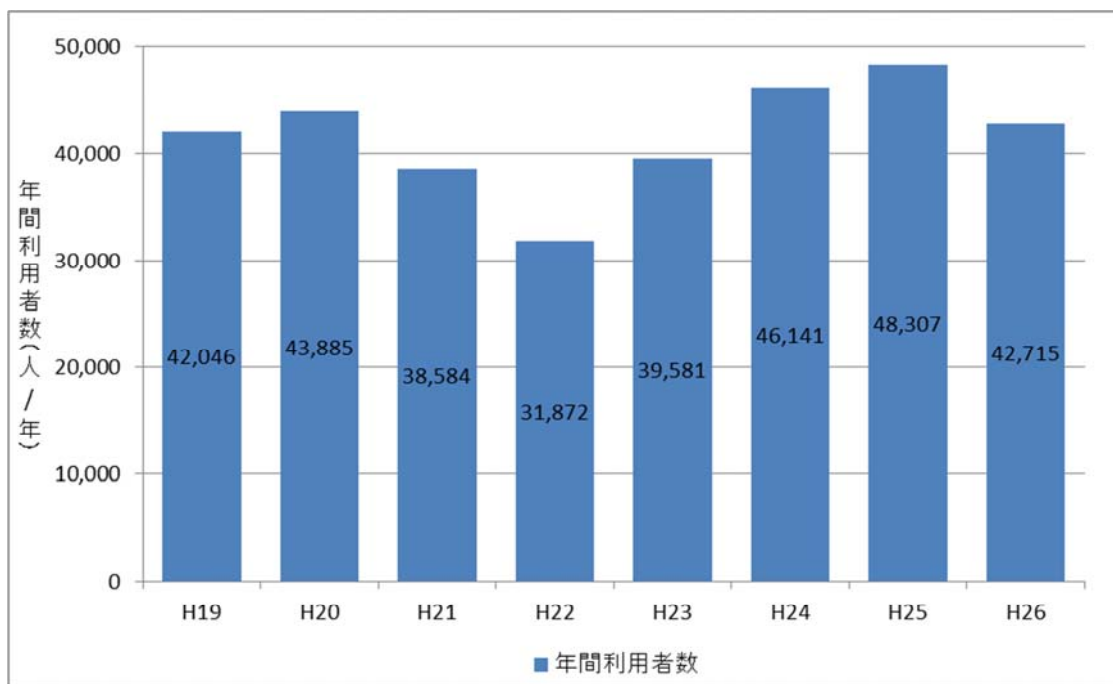
バス分類等の名称	東濃鉄道バス	都市間高速バス	あい愛バス	あい愛予約バス	スクールバス
路線名	1路線2ルート 八百津線（通常ルート、可児ルート）	1路線 高速新宿線 （パピヨン号）	8路線10ルート 市街地循環線、蜂屋線、加茂野線、下米田・牧野線、山之上線、伊深・甘屋線、上蜂屋・川浦線、日本昭和村・富加線、文化の森公園線	1路線1区域 古井地区線	三和小学校 双葉中学校 スクールバス
運行形態	路線定期運行 （道路運送法第4条）	高速乗合バス	路線定期運行 （道路運送法第4条）	区域運行 （道路運送法第4条）	（無償運行）
運行日	毎日	毎日	隔日・土曜日、 文化の森公園線 は土・日・祝日	平日毎日 （月～金）	学校開校日
運行目的	交通空白地の 解消、高齢者福祉、 学生の通学手段の確保	広域な都市間の 移動需要に対応	交通空白地の 解消、高齢者福祉、 文化の森公園線は 観光目的も有する	交通空白地の 解消、高齢者福祉	学生の通学手段の 確保
運行本数 （往復・循環1本）	1～6	1	3～7	7	三和小学校：3 双葉中学校：4
運賃	対キロ運賃 160～500円	6,200～6,800円	定額運賃 200円	定額運賃 300円	無料
H26年度 利用者数（人）	42,715	4,737	17,834	1,913	5,489 （双葉中学校は不明）
運行委託先	—	—	岐阜バスコミュニティ（株）	㈱新太田タクシー	—
車両の保有	東濃鉄道（株）	岐阜バス観光 小田急シティバス	美濃加茂市	㈱新太田タクシー	美濃加茂市
備考	—	岐阜バス観光 と小田急シティバスの 共同運行	日本昭和村・富 加線はH24.5 より運行	デマンド型運 行 H24.5より運行	双葉中学校ス クールバスは 美濃加茂市と 富加町で共同 運行

## (2) 利用状況

路線バスの年間乗車人員は、年度により増減はあるものの、平成19年度以降ほぼ横ばいであり、平成26年度は42,715人でした。

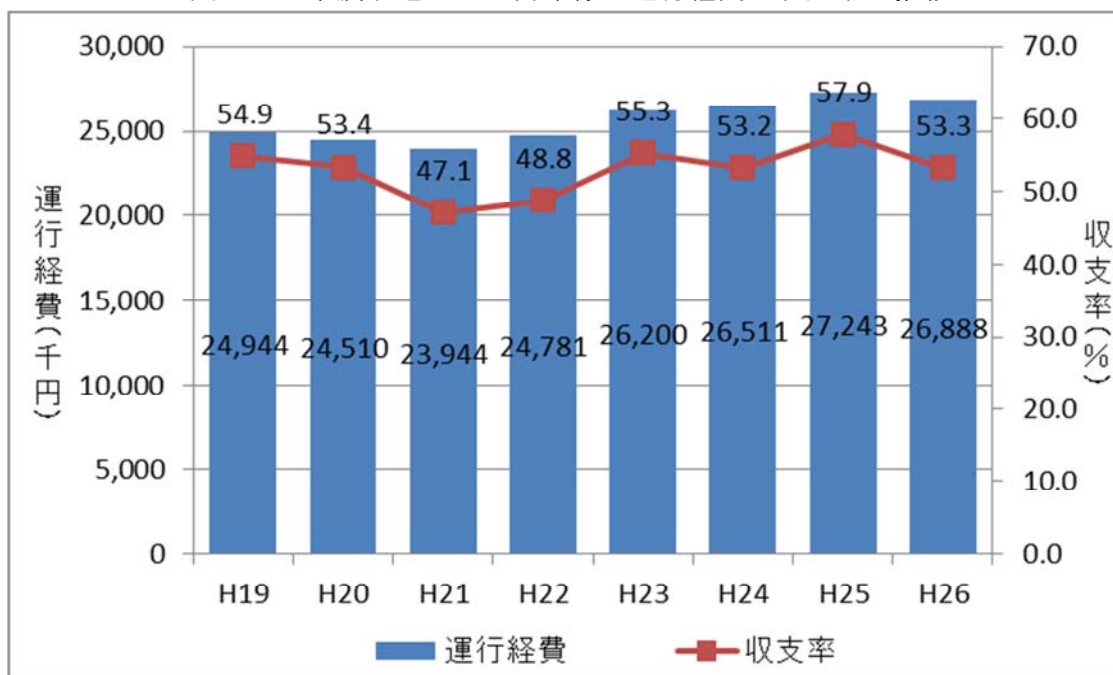
運行経費及び収支率もほぼ横ばいであり、平成26年度の収支率は53.3%でした。

図 2-8 東濃鉄道バス八百津線の利用者数の推移



※資料：東濃鉄道株式会社提供

図 2-9 東濃鉄道バス八百津線の運行経費と収支率の推移

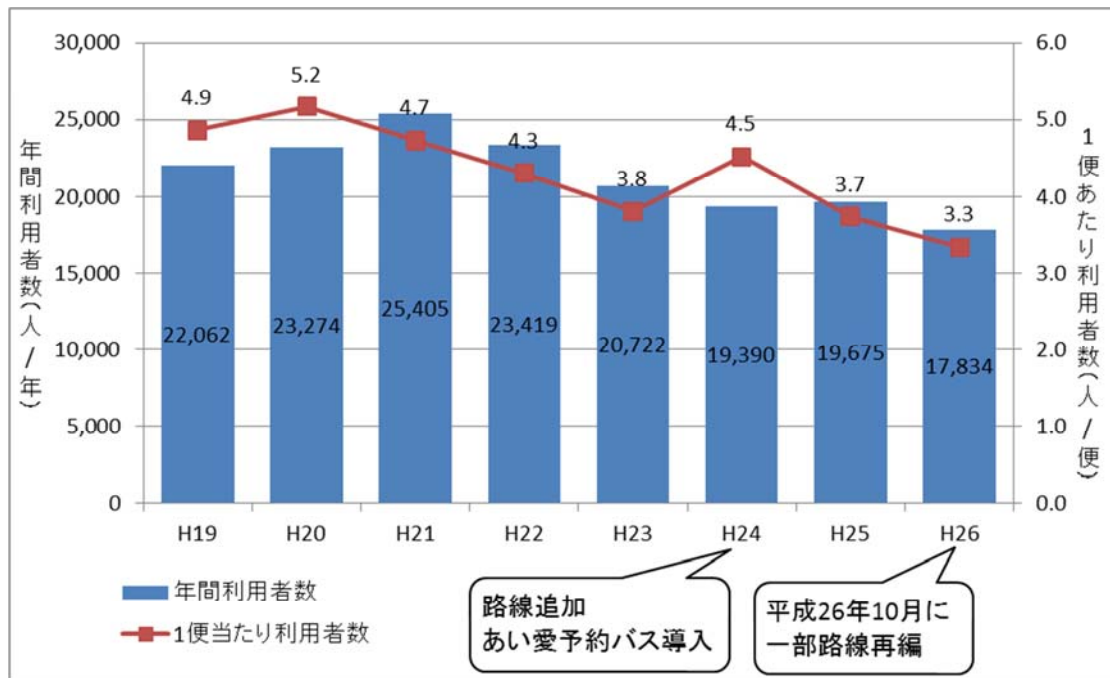


※資料：東濃鉄道株式会社提供

あい愛バスの年間乗車人員は平成21年度以降減少傾向であり、1便当たり利用者数も減少傾向にあります。

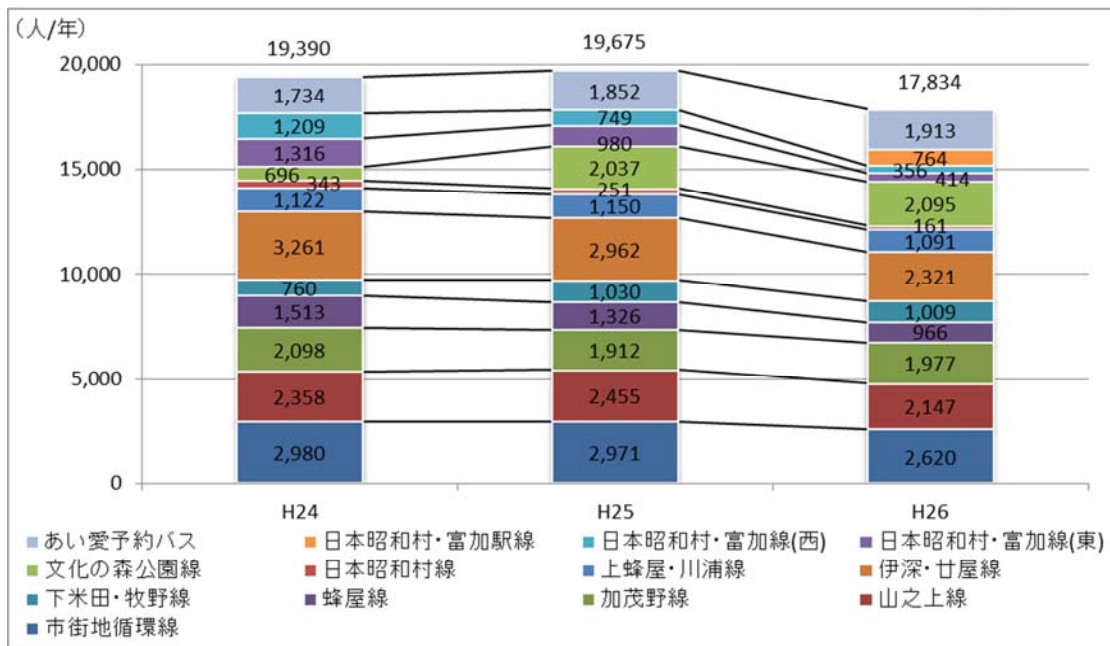
路線別の年間乗車人員では、市街地循環線、伊深・甘屋線、蜂屋線は減少傾向であります、あい愛予約バスは平成24年度の運行開始以降、増加傾向にあります。

図 2-10 あい愛バスの利用者数の推移



※資料：美濃加茂市提供

図 2-11 あい愛バスの路線別利用者数の推移



※資料：美濃加茂市提供



### 3) 上位・関連計画の概要

上位計画に位置づけられる総合計画及び関連計画である都市計画マスタープランの概要を以下に整理します。

#### ①美濃加茂市第5次総合計画

第5次総合計画の目標実現に向け、平成27年度から平成31年度を期間とする後期基本計画が策定されました。

表 2-4 総合計画の概要（将来人口・基本目標）

計画名	計画期間等	まちづくりの基本目標
美濃加茂市 第5次総合計画	平成22-31年度 (平成27-31年度は後期基本計画)  現況人口 55,185人(平成26年度) 目標人口 57,000人(平成31年度)	<b>【共通目標】</b> ・みんながそれぞれの役割をもって、誰もが活躍できるまちをつくります！  <b>【基本目標】</b> 1. 産業の振興により新たな価値のあるまちをつくります！ 2. 安心して暮らせるまちをつくります！ 3. 快適でこちよく定住できるまちをつくります！ 4. 美しい風景が残るまちをつくります！
<b>公共交通関連施策</b>		
<b>【基本目標3 政策4 便利に移動できるしくみをつくる】</b> 施策1. 市内の交通ネットワークの充実 ・コミュニティバスの運行形態や施設環境の抜本的な見直し ・様々な交通手段の連携した公共交通網形成計画の策定及び推進 施策2. 広域交通網や地域間ネットワークの強化 ・民間バスの都市圏直行運行		

#### ②美濃加茂市都市計画マスタープラン

平成17年度から平成37年度を期間とする美濃加茂市都市計画マスタープランが策定されました。

表 2-5 都市計画マスタープランの概要

計画名	計画期間等	都市づくりのテーマと目標
美濃加茂市 都市計画マスタープラン	平成17-37年度	<b>【都市づくりのテーマ】</b> ひとにやさしい環境づくりと産業を育む元気な都市づくり  <b>【都市づくりの目標】</b> ①恵まれた自然環境との共生 ②ひとにやさしい魅力ある都市環境づくり ③新産業立地による元気な都市づくり ④交通ネットワークの形成 ⑤安全・安心で住民主体のまちづくり
<b>公共交通関連施策</b>		
・鉄道は、岐阜方面や名古屋方面との連絡強化を図るため、JR高山本線やJR太多線の複線電化の促進、ダイヤの改善、名古屋市への利便性の向上などの施策を進めます。長良川鉄道は、地域交通路線としての確立を図るため、PR活動等を積極的に進め、その利用促進を図ります。 ・バスは、高齢化の進展等による需要の高まりに対応するため、コミュニティバス等の整備強化を検討します。また、バスのサービス水準の向上を図るため、バスロケーションシステムやデマンドバス運行等の新たな公共交通システムについて検討します。		

図 2-12 美濃加茂市都市計画マスタープランにおける将来都市構造

